

# 暑中お見舞い 申し上げます



豊かな自然が宝物  
みんなで紡ぐ結いのまち

大崎町長 東 靖弘

厳しい暑さが続いておりますが、皆様お変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

つい先達で、桜が満開となり、いよいよ新年度が始まったと身の引き締まる思いでいましたところ、瞬間に旧盆を迎えております。時が経つのは早いものです。

周囲を振り返りましても様々な出来事がありました。五月に発生した口永良部島・新岳噴火では、全住民の皆様が島外への避難を余儀なくされました。昨夏、新岳では三十四年ぶりの噴火がありました。今回は警戒レベル5規模の噴火が発生し、今もお苦しい日常生活を強いられています。

本町でも最近の異常気象を受けまして、四月三十日に、一時間に百四十八ミリメートルというかつて経験したことのない集中豪雨に見舞われ、床上・床下浸水、土砂崩壊などの大きな災害が発生いたしました。自然環境においても、これまで経験した領域と、経験則では測れない領域とで、複合的な視点で対応していかなければならない時代になりました。

一方、六十八年間、地域の核として寄与してきた旧大崎第一中学校に、県外からの企業進出が決まりました。これまで対策が求められていた農業用廃ビニールの再生利用対策として

大きな一步を踏み出せたと思っております。

また、大崎地区の吹切住宅において、民間活力を導入した定住促進事業に着手しました。町として経験していない、初の手法で試みるころですが、私としましても町の将来を見据え、待ったなしで挑戦しなければならぬと思っております。

さて、来たる新年の正月をもちまして、本町は町制施行から節目となる八十周年を迎えます。人に例えるなら『傘寿』といったところででしょうか。人生八十年の時代とも言われますが、私たち人生の後半には、身体や環境にさまざまな変化が生じてまいります。時には心身の機能を維持するために社交的な活動や、トレーニングにチャレンジしてみることも大事なことです。本町の歩みはまだまだ半ばでございますが、変化する環境に身を置きながら、将来を展望するための挑戦は相通じるものです。

国際情勢にあつては、欧州連合をはじめとする世界規模での経済・金融不安や、一触即発の様相であるアジア諸国の動向など、まさに激動の時代を迎えています。国内を見ても、憲法を含む本格的な集団安全保障に関する議論や、公職選挙法において七十年ぶりに選挙権年齢の引き下げが成立するなど大きく胎動しています。

激動の時代を乗り切るべく、私は本年を『大崎町・創生元年』と位置づけました。国が掲げる地方創生の潮流にあり、構造的な地域課題を解決するという視点から、若い世代の結婚・出産・子育て支援・民間活力の活性化・仕事づくりなど、わが町の未来に資する新たなスタートとしたいからです。

改めまして、一月には町制施行八十周年を祝う記念式典を開催いたします。これまで町政発展にご尽力いただいた皆様、関係者の皆様から敬意と感謝の意をお伝えしたいと存じますとともに、未来の大崎町発展のための新たな出発点にしたい、そう念願しております。

『創生』とは生み出すこと、初めて作ることを意味します。積み重ねてきた歴史に敬意を表し、そして新たなものに挑戦していく、そういう大崎町でありたいと思えます。

まだまだ暑い日が続きます。皆様、水分を十分に補給するなど体調に留意され、ご家族皆様で楽しい晩夏をお過ごしくださいようお願い申し上げます。暑中のあいさついたします。

平成二十七年 盛夏

大崎町長

他職員一同